

# 子供宝也

No.25

平成 25 年 11 月 27 日

尼崎市立武庫東小学校 校長 大楠正治

## 幸せになることを決してあきらめずに

先日、人権福祉学習会を行いました。昨年は車いすバスケットの選手をお招きしましたが、今年は全盲でありながら、ピアノを弾き、歌を歌い、人生を語ってくださる前川裕美さんという方をお招きしました。

前川さんは、3歳で音楽に出会い、6歳で作曲を始められましたが、小学校5年生の時に「網膜色素変性症」と診断されました。この病気は進行性があることに加え、治療法や進行を遅らせる薬もなく「いずれ失明する」という病気なのだそうです。徐々に視力・視野を失っていくなかで、「プロの音楽家になる」という幼い頃からの夢の実現を目指して、猛勉強を重ねられました。その後、阪神淡路大震災で自宅全壊に遭いましたが、避難所、仮設住宅でも歌い続け、どんな状況にあっても「必ず夢は叶う」と信じ続け、2年後には単身アメリカに渡り、作曲、編曲、声楽、ピアノを学ばれました。現在は、「人々に夢と希望を与えられる音楽家」を目指して活動されています。

そんな前川さんの歌や演奏はとてすばらしく、830名の子どもたちを黙らせてしまう力がありました。やさしく語りかけるその言葉にも説得力があり、寒いなかの1時間でしたが、みんな聞き入っていました。

たくさんの困難に真正面から向き合い、日本とアメリカでの様々な出会いと経験を通して学んだ、夢に向かってひたむきに努力し続けることの大切さ、幸せになることを決してあきらめない強い心などを語っていただきました。美しい歌声とともに、子どもたちの心のなかにしっかりと残ってくれたものと思います。

## 象さん

阪神尼崎の少し北に尼崎市総合文化センターがあります。ここは、より豊かで多彩な文化芸術の創造と、未来に向けて次世代を担う子どもたちへの文化発信及び普及を目的として積極的に活動しておりますが、そのなかにアウトリーチ事業というのがあります。意味は「地域への奉仕活動」とか「現場出張サービス」ということになるようです。今回はその一環として「おでかけアルカイック」と称して、国内の主要オーケストラで活躍されている本物の音楽家の方が、わざわざ学校に出向いてくださり、生演奏を聴かせてくださいました。6年生が対象となっていますので、すべての子どもたちというわけにはいかないのですが、昨年は打楽器とチェロの、今年はコントラバスの演奏を聞かせていただきました。

やっぱり本物は違います。コントラバスの重低音はなかなかの迫力でした。子どもたちも真剣な表情で聞き入っていました。サンサーンス作曲の「動物の謝肉祭」の一部を演奏し、「何の動物が登場しているか？」という質問に即座に「象さん」と答えた男の子がいました。「正解っ！！」演奏していた方も驚いておられました。6年生が「象さん」というのもかわいかったのですが、何よりその感受性の高さに私もびっくりしました。でも、本当は私も「象さん」と思っていたんですよ。信じていただけますか？

それはともかく、やっぱり本物はいいですね。音楽会、人権福祉学習会に引き続き、すばらしい音楽に浸り、心癒されるひとときを過ごさせていただきました。